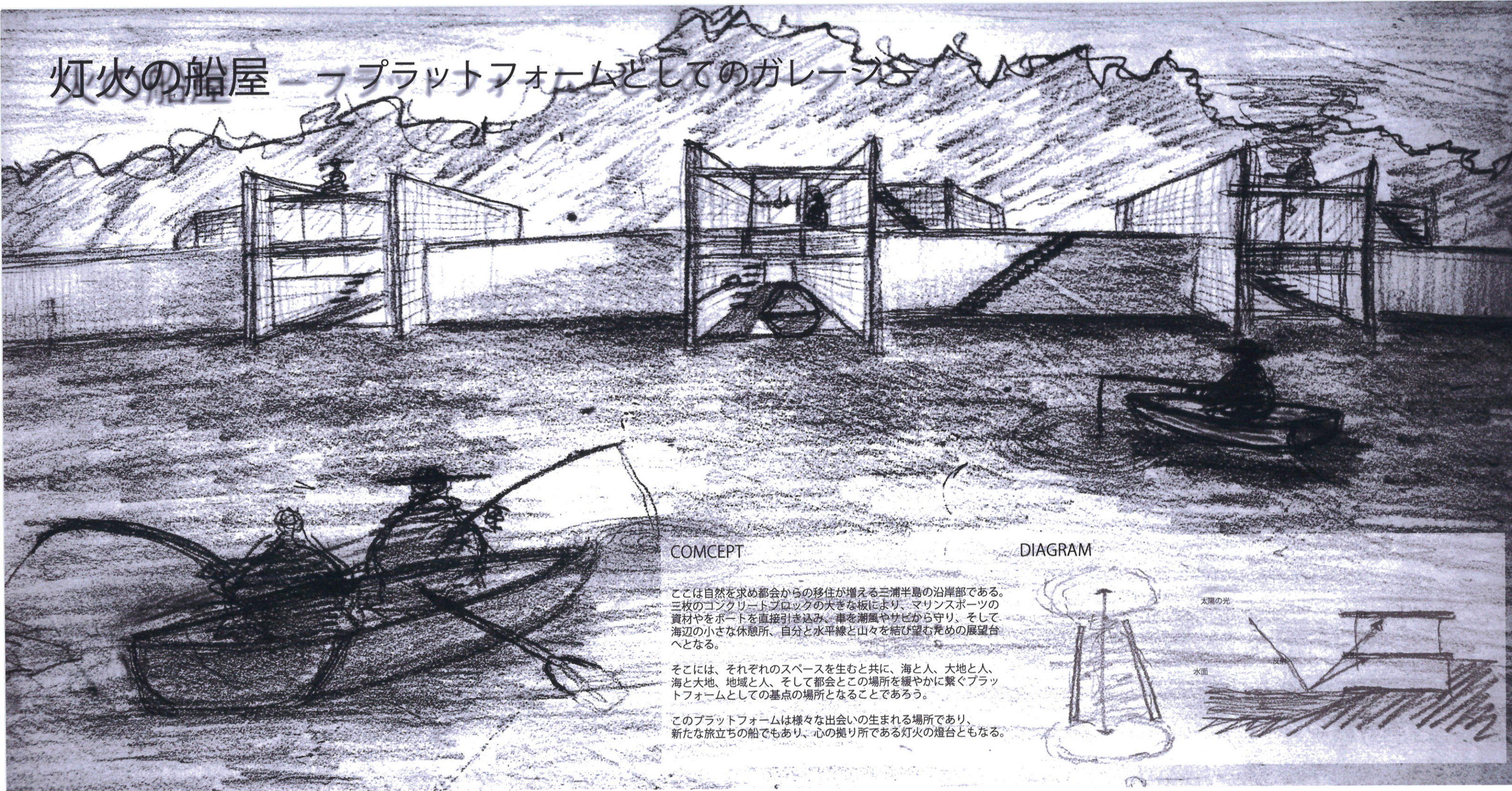


# 灯火の船屋 — プラットフォームとしてのガレージ



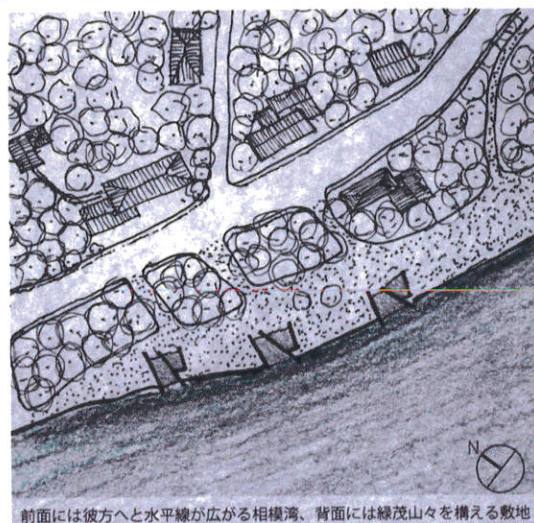
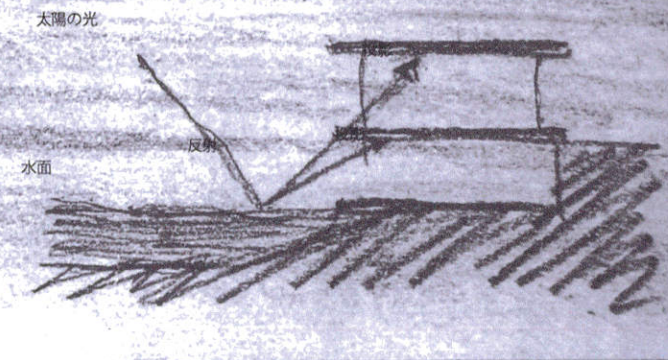
## COMCEPT

ここでは自然を求め都会からの移住が増える三浦半島の沿岸部である。三枚のコンクリートブロックの大きな板により、マリンスポーツの資材やボートを直接引き込み、車を潮風やサビから守り、そして海辺の小さな休憩所、自分と水平線と山々を結び望むための展望台となる。

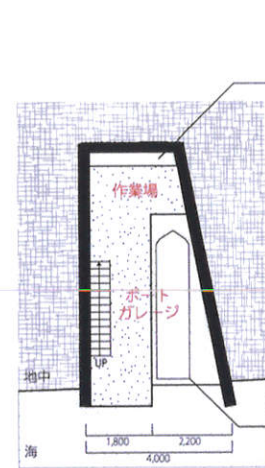
そこには、それぞれのスペースを生むと共に、海と人、大地と人、海と大地、地域と人、そして都会とこの場所を緩やかに繋ぐプラットフォームとしての基点の場所となることである。

このプラットフォームは様々な出会いの生まれる場所であり、新たな旅立ちの船でもあり、心の拠り所である灯火の燈台ともなる。

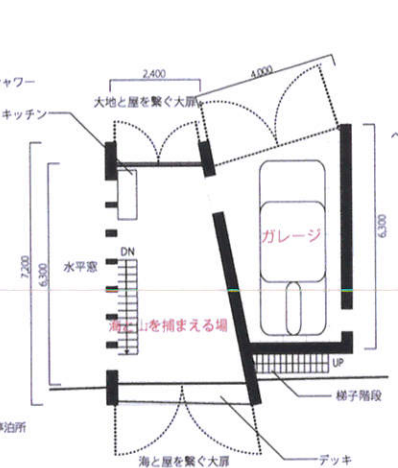
## DIAGRAM



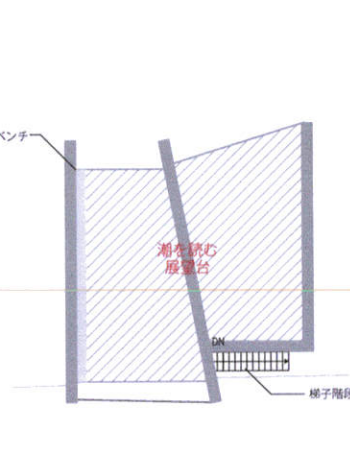
SITE



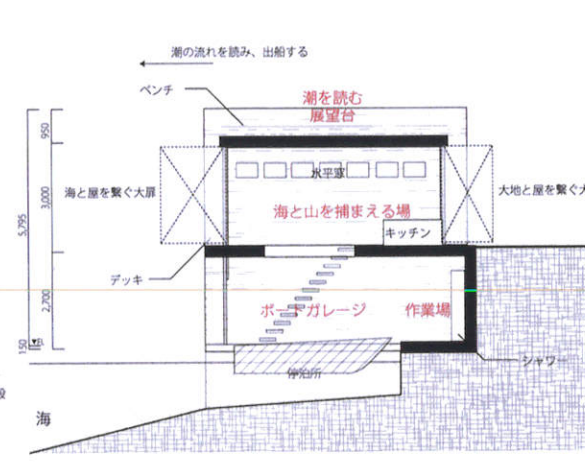
PLAN1(1:150)



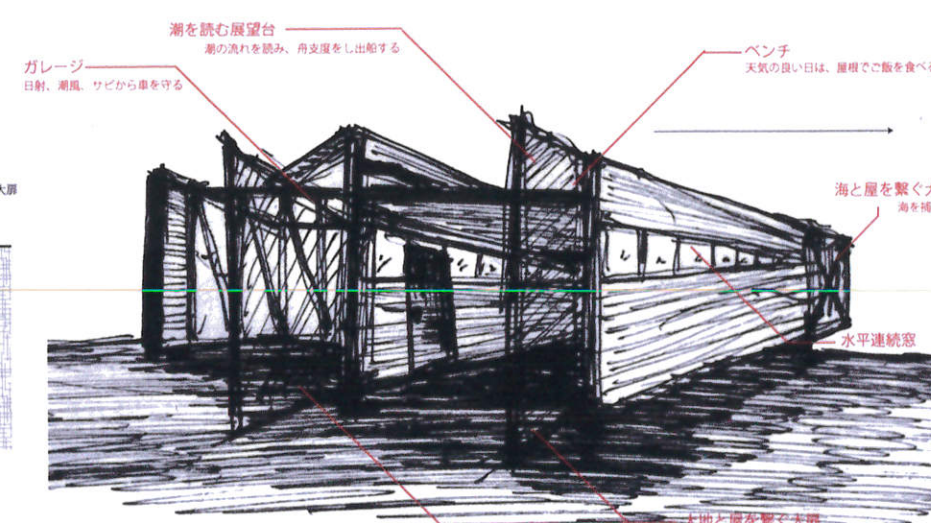
PLAN2(1:150)



PLAN3(1:150)



SECTION(1:150)



構成・外観